

論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫研究会	学籍番号	80730702	氏名	津久井 譲
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">内省経験を促進する外的イベントの主体的獲得 — 日本型昇進管理における仮説の設定 —</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本研究は、主に 1980 年代半ばより盛んに行われきた日本型昇進管理に関する従来の研究がスタティックな範囲に留まっており、昇進管理の場を舞台にして起きている個人活動のダイナミクスが説明されていないことを筆者の問題意識として取り上げ、昇進と内省経験に関する理論モデルの構築を通じて仮説を導出することを目的としたものである。</p> <p>仮説導出は以下のように行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、日本型昇進管理に関する先行研究調査を通じて、これまで確認されてきた昇進要因の整理を行い、ほとんどすべての先行研究において昇進イベントの発生主体が「人事部」と設定されている点、および自己理解を通じた自己成長、すなわち「内省経験」が用いられることがなかった点を課題として指摘し、それぞれの理由の説明を行った。 上記諸課題のうち、前者については、人事部、ライン上司、従業員個人の 3 者を仮説的に設定することで、後者については、メタ階層から内省を捉える方法を援用することで対処を試みた。 ・ 次に、臨床心理学、精神病理学、脳科学の点から、内省の形式や内省の心理的活動過程について整理し、脳の可塑性やコミュニケーションの基本構造によって内省の効果を獲得するメカニズムの説明を行った。また、外的イベント（修羅場）の経験によって達成される自己成長が内省の効果として期待されることを踏まえ、本研究における内省経験の定義を行った。 ・ そして、この内省経験が先行研究で確認されてきた昇進要因への作用を通じて昇進イベントの発生に影響を与えることを説明する理論モデルを構築し、インタビュー調査結果を踏まえて、仮説の導出を行った。 <p>最後に筆者は、積極的に昇進競争を生き抜こうとしている個人、および効果的な昇進管理制度構築を模索している企業・組織に対して提言を行った。</p>					